

関係団体	本取組についてのご意見・ご感想をお聞かせください（抜粋）
小学校	環境スタンプラリーを行った。環境の本を借りたらスタンプを押印。スタンプの数に応じてプラスワン券や環境の「しおり」をプレゼントした。
	環境の本の中から数冊選んで、図書委員におすすめの記事を書いてもらった。それを帯のように本に巻いて掲示したら、環境の本の中でも特によく借りられていた。
中学校	電子黒板で環境に関する本、SDGsの本の紹介をプレゼンテーションで流しました。動画で紹介した本を読んだ生徒が本の紹介POPを作ってくれました。今後もプレゼンで紹介本を流していきたい。
公立幼稚園	絵本の部屋だけでなく、各保育室にも環境絵本コーナーを設置したことで、読みたいときに手に取って様々なお話に触れる様子が見られました。また、読み聞かせを通してクラス全体で環境について考える場を設けました。環境月間だけでなく、今後も生活の中で場面を捉えながら環境について考えたり様々な絵本に触れたりできるようにしていきたいです。
	この環境月間は、こどもたちが日常からできることを取り組み始めるいい機会となっている。また、教師も環境問題について考え、取り入れるいい機会となっている。
公立保育所	難しく考えずに、こども達の周りにある自然を感じられることがまず第一歩ではないかと感じました。昨今、夏の暑さは、子供達には耐えがたい様子が見られています。今回の取り組みで、身の回りの環境を知ることは自分の身を守ること、そして、自分たちの住む地球を守ることに繋がると感じてもらえるような働きかけをしていきたいと思いました。
	日頃、保育の中で読み聞かせしている絵本の中にも“環境ブック”の一覧表の中に入っているものがたくさんありました。“環境ブック”として意識して読むことで保育者自身の絵本の見方、捉え方も変わってくるので、よい経験となっています。
私立幼稚園	読み聞かせは毎日行っており、今回のように環境関連だけでなく、季節の森や、行事の絵本などコーナーや図書の部屋を活用しています。また、普段より、折り紙や箱など、制作に使うものも大切に使うように話をしています。今後とも続けていきたいと思っています。
ボランティア読み聞かせ	絵本の内容が子どもたちにとってもおもしろかったようで、何度も「読んで」とリクエストしてくれました。読むたびに「もったいないね」「僕（私）残したりしないよ」などの感想を言い合う姿が印象的で、積極的に給食をおかわりする子も増えました。
	梅雨時期でもあるので、雨の大切さや身近な自然の話を絵本はイメージしやすく子供にとってわかりやすいと感じました。もったいないよばあさんなどの絵本は子供自身が「これもたいたないよ！」と気づくきっかけになりました。
こどもルーム	5月末より飼育ケースに「てんとう虫」を展示。関心を持つ親子の会話が見られた。6月からは、かたつむりの大・小を展示。食事や排せつの様子を観察してもらった。実物を見ることで生態や周囲の環境の変化が話題になった。中旬には、かたつむりの卵が生まれ、ルーム利用者がはじめ、職員も見るのが初めてだというのを聞いた。かたつむりの実物をみたことがない利用者も多くいて、環境の変化を改めて感じました。また、実物を見るのはとても大切だと感じました。
市民図書館	「地球のためにできること～環境月間～」と題し、子ども室にて、地球温暖化やSDGsに関する本を企画展示で紹介しました。普段貸出が少ない分類の本も利用者の方が取るきっかけになったと感じます。次年度以降も実施したいと思います。